

## 自主防活動事例発表・都庁にて

こんにちは、ご紹介を戴きました町田市相原町中村町内会自主防災隊の長田でございます。

私達が取り組んで来た「防災活動」がこの様な場所で発表出来る事に感謝し、会場の皆さんに一つでも参考になればと思い発表させて戴きます。

### 始めに私達の町を紹介します

中村町内会は町田市の西の端に位置し八王子市、相模原市に隣接しJR横浜線相原駅西口側の町で300世帯900人の構成で京浜地区等への通勤、通学者が比較的多く里山等も見られ、のどかで静かな町です。近くには大学が数校あり、朝夕は学生街の様相も見られます。

盆踊りやイベントには、そこそこの参加がありますが高齢化、少子化の影響も大きく夏祭りの子供神輿には大人の手助けを必要としている、町会役員も持ち回りで各種団体も、それぞれ活動している何処にでもある町かと思えます。

### 防災活動への道のきっかけを紹介します

平成15年までは自主防の形は有りましたが、持ち回り役員体制のもとでは機能しにくい状態が多く見受けられました。私も役員が回って来たのをキッカケに災害時に「自分の命を守れない人」どうするか?と問題提起をして数人の賛同者を得て自主防災の見直しに着手しました。

多くの方は「災害はすぐに起こらない」また「災害は起こって欲しくない」と油断と、甘い願望の多い中での見直しに、初めは思ったよりエネルギーを必要としました。

### 見直しの中で

「一人一人が必要性を感じる事」を基本とし、行政、地域、民間で行う事を検討し、私達民間人として出来る事を一つ一つ取り組む事で被害を少しでも小さくするには、何と言っても、「防災意識の高さ」、「顔の見える防災」、そして「何時か来るその時」に「何時もの防災」で緊張感を持って備える事としました。その為には、防災活動の「繰り返しと継続」を防災

隊の目標としました。

知識や経験の少ない私達は、多くの研修会や、講演会に手分けして出来る限り参加をしております。それらを月例勉強会で検討し、地域に合った様にして、町内会の勉強会や、防災便り等を、通じて会員との防災意識向上や、情報の共有化に力を入れております。

## 次に活動の主な取り組みを紹介します

### ★ 小単位の班編成

(24班、10～15世帯マップの凡例を説明)を採用、班には積極的な小回りの利く、活動を求め、防災隊は町内会冊子にしっかりと町会傘下の独立組織として位置付けをして戴き、任期は定めず 出来る限りの長い任務の協力をお願いしています。

### ★ 情報共有化

意識改革の為に、本部員は、月例会を、防災正副班長、一般の方には年2回以上の勉強会を行いスキルアップを図っています。多くの回覧物の中に紛れて伝わらない情報を無くす為、色紙を使用しています。(黄色 防災たより・ブルー 会議通知) 定着して来ました。

又防災倉庫には、賞味期限、有効期限の有る水、食糧、乾電池等は置かず、この様な備蓄品は防災意識を常に自分の近くに置いて頂くためにも各家庭での備蓄として、防災倉庫には個人として持ちにくい、救出、救助の初動対応備品の保管を優先しています。

### ★ 防災訓練

皆さんの地区では?、中村では毎年多くの参加者があり、世帯数の60%程の参加あります。日常でも、地震発災時でも、私達の町では火災発生が一番心配されます。「消火器の購入設置」、「風呂水の汲み置き」、「近所連携での初期消火」を機会ある事に啓蒙しています。

### ★ 防災カード、安否確認ボード

これらの活用は発災時最も大事な事と位置付けしています。

▼ 防災カードは正副2通を作成、正を24人の班長が副を本部が所持、各家の家族構成、要援護者、資格、提供備品等が記録されており、人員変化についてはそのつど班長さんが記入し、隔月に行われる美化デー等に班内の全員と情報の共有化を計っています。

▼ 安否確認ボードについては町内各戸に配布して、震度4以上の地震時には、各班の一時避難場所に集合すると決めています。参集していない家があれば参集した誰かが確認をする、どうしても体調等が悪く参集出来ない人は自分の家の門扉、玄関等の見える所にボード掲示しておき、確認の手助けをし、掲示していない家には声を掛け確認対応をする事にしていきます。又、裏面を利用し、家族等の連絡先等を表示、使用しており、一人住まいの方に大変喜ばれています。

★ 断水に備え**災害時協力井戸**が10カ所登録されており市で年1回の水質検査が行われ、断水時の飲料水の確保の点では強い味方となっています。

★ 救出や応急対応には、町内の**専門技術者**（電気、水道、建築、土木、車両、他）の応援を受ける体制の確立をしています。

### **近年町内で起きた事2～3発表します**

▼ 高齢者の救出～風呂から出られなくなったお婆ちゃんを娘さんが近所に助けを求め数人の主婦が駆け付け手助けをして事なきを得た。防災活動のお蔭と家の方からお礼の言葉を戴いております。

▼ 3・11の対応～防災隊メンバーと町民の方が発災後、町内の各家を廻り安全、安否を確認後、相原駅帰宅困難者40人以上の人を町内会館に誘導、食事飲み物を用意し堺市民センターに、強い申し入れで宿泊し、翌日全員が無事帰宅された。民間レベル対応としては市内の一番乗りと思います。

その日私は、中高年者の勉強会の引率者として講師の先生と中央区の聖路加病院の庭に居ました、40人の講座生と町田には帰る事が出来ず、有楽町の交通会館ビルの地下で一夜を過ごし12日の昼過ぎの帰宅になりました。この様な時に、マニュアルにも無い事に臨機応変の対応したメンバーと、町内の協力者にリーダーとして頭が下がり、又、大変うれしく思いました。

▼ 今年の大雪で（50～60cm）では近所どうしの連携で生活道路の確保、凍結防止剤の確保、散布、雪捨て等がスムーズに行われた。

これらの事例も防災活動により近所の繋がりが町全体に芽生え、形に成っ

てきたものと思われます。

## 本年度の取り組み事業を2点紹介致します

### ★ 普通救命講習

数量、価格、管理の問題があり、前年度AED購入見送りの対策として本年度中に2~3回の実施を計画しています。

### ★ ブルーシートのハトメ金具取り付け

購入しただけで、物置にしまい放しだと、金具等が少なく使用に支障をきたすのでハトメ金具の取り付け作業を計画しました。これにより、各家庭で防災品の再確認をする事ができ、防災意識の向上を図る事も目的の一つと考えています。

## 活動の総括としてまとめてみると

活動を進める中で、「近所の繋がりを持つ事」、「活動の繰り返しと継続」、「防災意識の向上」は、最も大事な3本柱と考えています。

私も阪神、中越に赴き、東日本では、防災士仲間や、友人と数回足を運び現地の方々から多くの事を教えて戴き 又パワーを戴き、防災の必要性をより強く感じています。

それらの経験を 私達の町で生かして 安全神話に惑わされる事無く訓練の実行、諸問題解決に 中村自主防災隊は前向きに取り組んで行く所存です。活動の夢ですが、近い将来、中学生、高校生の力を取り込めたら素晴らしい事と考えています。夢で終わらない様にしたいと思います。

町の中でお会いするの方々から こんにちは、何時も有難う、ご苦労さんの挨拶を聞くに付け、住民一人一人が前向きに防災に取り組んで居る事、また、多くの方々防災活動を求めて居る事を、肌で感じている所です。隣人同志、また地域で、明るい挨拶が飛び交う町こそ、防災の底力に成るものと信じて益々活動に、力を注いでいくつもりです。

以上で中村自主防災隊の発表を終わります。ご清聴有難う御座いました。